

令和4年3月24日「地域福祉推進会議」議事要録	
開催日時	令和4年3月24日(木)午後2時00分から午後3時30分まで
開催場所	奈良市役所北棟2階203会議室
議題	地域福祉推進会議
出席者	委員 山下委員、今西委員、作間委員、森山委員、安井委員、木村委員、田中委員、松村委員、安藤委員 【委員13名中9名出席】
	事務局 【福祉部】福祉部次長、福祉政策課長、課長補佐、係長、係員 【奈良市社会福祉協議会】8名
開催形態	公開(傍聴0名)
担当課	福祉部福祉政策課
議事の内容	
1 開会 2 議題 (1) 第4次地域福祉計画・第3次地域福祉活動計画(案)について (2) その他	
〔質疑・意見の要旨〕	
(成年後見制度について) 看取りの仕組みを考えることは必要である。最期、親しい人に看取られていく、そういう環境を考えることを、やがて考えていかないといけない。	
病気の種類によっても違うので、病院に入ったらおしまいというようなことはないのではないか。最近新型コロナウイルス感染症により病院で亡くなる方もおられるが、そこで見守る家族等がいなくても、お医者さんや看護師が家族を看取るように、丁寧に診てくださっている。そういった情報が流れていないのかもしれない。そのため、病院で死ぬことを不安に思ったり、捨てられたと思ったり、自宅で死ぬことを幸せだと思ったりするのだろう。病院に入れない故の在宅医療の悲劇もあるので、思い込みを拭い去っていかないと不快感が広がるばかりかと思う。	
エンディングノートである「わたしの未来ノート」に関するフォーラムについて先日開催されたが、計画のどこかに記載はあるか。	
看取りの問題など、先にどのような形にするかという事を行政が出してはいけないと思う。個人情報取扱いについても、命が大事か、情報が大事か、市民に問いかけていくのが大事かと思う。	
子ども等の見守り強化事業が掲載されているが、この事業は子ども食堂と地域の課題のある子どもにお弁当を届けるという取り組みであったが、昨年度と事業内容が変わってきているように思うので、修正をお願いしたい。	

15 ページのまとめが非常にいいと思う。それが第3章に繋がり、さらにそこで深掘している。もし可能であれば、15 ページにて「重点的取り組みについては30 ページから」というような誘導するような記載があれば、見てみようと思ってもらえるのではないかな。また20 ページのところも、例えば「取り組みは34 ページから」という風に記載があればありがたい。18 ページのヤングケアラーの問題は非常に興味を持っている方もおられると思う。全国平均等があると身近な数字に感じることができるかと思う。

高齢者の居場所が気になっている。地区によっては、場所づくりが出来ない、場所がないところもあり、実現はむずかしいと感じるが、私自身は、出来ることをするのが大事なのではないかと思ひ、この会議に出席している。例えば、コロナで生活が困窮されている方の状況を社会福祉協議会から聞いたら、やっぱり何かしないといけないなと実践的に伝わる。そして、実際にこの方たちが困っているという所へ手を差し伸べようという気持ちで活動している。ヤングケアラーも高齢者のサロンも大事であると感じた。

認知症と家族の会は総括して多職種連携に入るのであろうと理解している。ケアパスという冊子においても、認知症と家族の会の活動や業務が掲載され、同会の活動に対して非常に理解いただいている。先日地域の担い手養成講座があり、多くの方との交流を通して、社会福祉協議会や市役所の働きを実感しているので、この冊子はよくできていると思う。

活動の中での交流が元気の源である。地域福祉活動を推進するための条件は、場所と専門職。場所はハード面、ソフト面あるが、生活支援コーディネーターが置かれ、その方向が見えてきた。

地域で認知症であることに気づいた支援員が、地域包括支援センターに繋いだら、地域包括支援センターと支援員の中では、ご本人とご家族の気持ちが今一つ把握しきれないという時に、それを認めてその場で止めずに、専門職である認知症と家族の会に声をかけ、三者でその方のケアにかかるなどの連携もある。

入所施設で問題になっているのは、成年後見の問題で、どこまで後見人が見てくれるのかということである。お金や生死の話は後見人では判断出来ないが、判断をしないといけない場面がでてくる。困っている。

親が面倒を見てもらう歳になり、親が障がいを持つ子どもの面倒を見るのが難しくなってくると、対応するのが兄弟になってくる。親では判断出来ないケースもあり、兄弟も遠方にいる場合等は、後見人も苦労されている。また親が子を抱く場合と兄弟が抱く場面とは違う。そして必ず兄弟の配偶者がついてくる。兄弟が悪いと言うわけではないが、世代交代とともにどこかが守る仕組みを作らなくてはいけないのではないかな。成年後見に関しても、親の世代交代のことをどう考えていくかというのは、市行政や市社協と考えていかなくてはならない事かと思う。障がい者当事者が悩んでいることである。

障害基礎年金を親が使いこむ等の経済的虐待にあたるケースは昔からもあった。成年後見制度の中身が深まることを期待したい。

<p>成年後見については、何かきっかけや、せざるを得ない状況がないと、権利擁護センターに行くまでにかなり時間がかかる。今そういう方と関わる中で、エンディングノートである「未来ノート」を活用し、高齢の方が頭の中を整理する意味で、この先自分はどうのように生きていくのかを考え一つの指標になるかなと思いついていただいているが、何度も何度も書き直して、ご自分の今の状況を考えて下さっている。成年後見制度に繋げるのか、そこにいくまでの間は何なのか、頭の中でまだしっかり整理できていない。</p>
<p>今までの民生委員の方の活動と言え、孤独死と虐待対策が大きな不安の柱だったが、昨今では、成年後見とターミナルケアが入ってきており、非常に難しい問題である。民間ベースでアクションを考え、市民の合意形成をしていくのが大事だと思う。</p>
<p>居場所というのがキーワードかと思う。特に子どもの居場所について随所で触れられてはいるが少ないと感じた。ヤングケアラーなどは子どもの事だと思うが、そういうニーズをキャッチする取り組みは、子ども食堂等にあると思うので、もう少し「こんなこともしている」「目を行き届かせているようにしている」という事を、重点的な取り組みのところで触れられていてもいいのかなと思った。今行き場のない子どもたちをテレビでみるが、この子たちのニーズをキャッチするような居場所をつくらうとしているというのがみえるといいと思う。</p>
<p>31 ページの個人情報の取り扱いの漢字の書き方だが、単体で書く場合は、ふりがながいるのではないか。また複合多問題ではなく、複合的多問題ではないか。再犯防止推進計画の表について、縦軸で積み上げているのが分かりづらいので、横並びのほうがよい。</p>
<p>地域づくりは繋がりづくりで、これがないと地域福祉にならないと言いたくて、このために社協と行政が一体となって、地域福祉を推進していくのだという事を計画に書いた。統計を見る人が見れば、この章が大変であることがよくわかるデータである。また資料編をたくさんつけているのは大事だ。</p>
<p>見張りでなく見守り。子どもも大人も温かい見守りが大事。その子らしい居場所、その人が落ち着ける居場所、あなたの場所、話し相手、相談相手、うなずいてくれる人、それが大事。そのことがこの一冊に詰まっていると思う。</p>
<p>この計画を指針として、頑張っていきたい。他の委員から、子ども食堂について言っておられたが、子ども食堂はできたばかりで、地域の実施者が綱渡りの状態で資金面も場所的にもやっている。ただ、コロナ禍で、子どもたちの居場所が作れない状況になっているため、8050問題のひきこもりの若者だけでなく、中学生や小学生もどんどんひきこもりになってしまう状況になっている。この地域福祉活動計画を実施しながら、次の活動計画では、子ども食堂や、行き場のない子どもが安心して集える場所をきっちりとして入れていただけるように、頑張っていきたいと思う。</p>